

令和7年7月9日  
クリーンセンター連絡協議会  
浅川清流環境組合

## 可燃ごみ処理施設専門家委員会について

### ■設置目的

施設の稼働における事象で、学識経験者の見解を得て対応することが望ましい内容について検討すること。

### ■検討事項

1. 公害の防止、対策に関すること
2. 公害の監視方法に関すること
3. その他周辺環境の保全について必要な事項

### ■委員

- ・委員長：宮脇健太郎氏（明星大学理工学部教授）…環境影響評価、環境負荷
- ・副委員長：荒井喜久雄氏（元全国都市清掃会議記述指導部長）…廃棄物の調査研究・提言
- ・委員：櫻井達也氏（明星大学理工学部教授）…環境影響評価、大気汚染
- ・委員：荒井康裕氏（東京都立大学都市環境学部准教授）…廃棄物処理。リサイクル分野

## ■第6回委員会（令和7年2月18日）での主な意見

## 【水銀関係】

1. 水銀の一時的な超過に対する活性炭の吹込みについては、連続測定設備がある施設だからこそできた内容である。水銀超過は以前より減っていると感じる、水際の周知、運転対応ができている結果と感じている。
2. 水銀の最大着地濃度は  $0.0025\mu\text{g}/\text{m}^3$  と表記されているが、環境中の自然由来の値  $0.0024\mu\text{g}/\text{m}^3$  を除き、煙突・施設由来の値である  $0.00012\mu\text{g}/\text{m}^3$  のみを記載すべき箇所である。安全面の説明をするうえでもより理解いただけるのではないかな。
3. 水銀における指針値  $0.04\mu\text{g}/\text{m}^3$  は年平均値の指針であり、当該資料の最大着地濃度  $0.0025\mu\text{g}/\text{m}^3$  も  $50\mu\text{g}/\text{m}^3$  N が常に施設から排出されている前提で計算したものである。今回あった水銀超過の事例も超過・暴露時間はかなり短時間の話のため、影響はないといえる。
4. 運転上問題はない。市民の方からのご意見もあることから、ご理解ご協力について組合からも周知徹底をするといいいのではないかな。
5. 数値の意味内容についても丁寧に対応するとよい。
6. 令和6年度の水銀回収キャンペーンにおける途中経過の報告について、体温計と血圧計では水銀含有量が異なる。体温計をいくら回収しても、血圧計1つで基準値の超過が発生する可能性がある。水際対策は各市と協力し継続し実施する必要がある。

## 【災害廃棄物関係】

1. ごみ質が通常の搬入ごみと異なる部分があるため、燃焼管理をしっかりと行うこと。
2. 災害廃棄物の広域処理は非常に重要で、全国的に協力し合う体制の構築が大切である。